

主婦連をより

主婦連合会は昭和23年に設立して以来、消費者の権利の確立と誰もが暮らしやすい社会をめざして運動を続けています。

主婦連をより

2015年(平成27年)12月15日

(6)

自動車用緊急脱出ツール JIS化に向けた実地調査に参加

今年度初めて自動車用緊急脱出ツール(以下脱出ツールとします)が、JIS化に向けて動き出しました。同時に、その試験方法の審議に当たり実地調査が一月九日に実施されました。

今年五月に経済産業省が掲げた「新市場創造型標準化制度」の、優れた技術や製品を従来の業界団体でのコンセンサス形成を経ずに、迅速に国内標準化と国際標準化も可能にするという呼びかけに応え、企業が提案し採用された中の一つが脱出ツールです。そのJIS原案作成委員会が九月下旬からスタートしました。

脱出ツールとは、自動車事故や水没事故などで閉じ込められてしまったとき即座に確実にシートベルトを切り、窓ガラスを割って緊急脱出するた

めに使用するもので、形状としてはハンマー(金づち)タイプ、グリップ部をピックのように握って使用するピックタイプ、ヘッド部分をガラスに押し当てて使用するポンチタイプがあります。主婦連合会に実地調査参加の呼びかけがあり三名が参加しました。

会場は車のリサイクルを進める企業の埼玉真熊谷工場を借り、まず初めに提案企業のワイピーンが破れるほどの爆発音たというのを初めて知りました。次に、シートベルトは肋骨が折れるほどの強さに引き締まり体が固定される状態になることも確認しました。

窓ガラス破碎とシートベルト切断実験では、JIS規格に沿える実験装置が用意され、提案企業開発の脱出ツールとこれまでにリコール対象となったものの改良品二種が試されました。私たちが用意していたいたいた防護服を着用後乗車して前者を体験しました。また

実験で使用した専用ツール
「消棒 RESCUE」



ま金づちで割れた場面もありましたが、専用のツールでどちらの使用目的も確実に果たせたのは提案企業の製品(消棒 RESCUE)のみでした。終了後の意見交換では、脱出ツールに関わる様々な場面での確実な使用方法について、消費者への伝達方法を工夫して欲しい等の活発な意見や要望が出されました。